

弘前市自治基本条例市民検討委員会調査概要 (「自治基本条例に関する事項(答申)」中間報告書に対する意見聴取)		
日時	平成25年11月19日(火)19時~20時11分	
場所	弘前市民文化交流館 多世代交流室1(ヒロロ3階)	
出席者 (11人)	団体	(学生:7人) 学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアム 学生委員会「いしてまい」
	委員	(3人) 佐藤三三委員長、清野委員、三橋委員
	担当	(4人) 白戸市民協働政策課主幹、工藤係長、櫻庭主査、佐藤主事
団体に対する中間報告書の内容説明		平成25年11月19日(火)、一括説明
調査概要		
<p>(※ 市民協働政策課長挨拶)</p> <p>(※1 趣旨説明)</p> <p>(※2 出席者紹介)</p> <p>1 開会</p> <p>2 意見聴取</p> <p>(○団体出席者の出身地について 省略)</p> <p>(○団体名由来、活動内容等について 省略)</p> <p>(○中間報告書の内容に対する疑問等 省略)</p> <p>○中間報告書の中で、個人的に興味や関心を持った事項について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中間報告書の中で、個人的に興味や関心を持った事項は何か。</li> <li>・学生のまちづくり、学生が主体というのに興味がある。</li> <li>・これまでの委員会の討議において、まちづくりの主人公は誰かという話をかなりして、やはり18万人のこの弘前で、6つの大学があることはすごいことで、大学生などの若い力を主役として入れていくということは、みんなから出た意見であり、この部分は、弘前の自治基本条例の特筆する部分なので、そこに興味を持ってもらい、主役として位置付けて良かったという感じがする。</li> <li>・最近、函館で学生とも交流して、学生が主体で動けるのは、やはりすごいなあというのを実感したが、自分の大学にいれば、みんなが主体にはなっていないイメージがあるので、もっと参加を促したいと思った。</li> <li>・前文に住みよいまちとあるが、冬場になると道路も狭くなったり、歩行者が車道を歩かないといけなくなったりというのがあり、そういうところに対する取組がされていないと思う。</li> <li>・夏場でも、細い路地では、車同士がすれ違う際、歩行者が通れなかったりとか、自転車が危なかったりといった環境があるが、大学生は、ほとんどが自転車中心だと思うので、そういった歩行者などのことを考えた道路にしていけばいいと思う。</li> <li>・住みよいまち、どういうまちを作っていくかということに興味、関心があり、まちづくりにおいて、道路整備が必要じゃないかということだと思う。</li> <li>・子どもの権利について、子ども目線で、自分の住んでいるところを好きになるとか、色々考えて、まちづくりの一員として考えていることはいいと思ったが、積極的に意見を吸い上げる機会を設けていくというのは、どういう形でやっていくのかと思った。</li> <li>・子どもを主体、まちづくりの担い手に位置付けたことはいいが、子どもから意見を吸い上げる、子どもを主体としてまちづくりをするというのは、どうやっていくかということだと思う。</li> </ul>		

- ・自治基本条例は、大きな枠で、子どもを主役としていくという方針のようなもので、例えば、子ども議会や子ども会、まちの行事などで子どもの意見を取り入れていくまちにしていきたいということなので、子どもの意見を聞くという具体的なものは、この条例が出来た後、市民、行政が一緒になって考えてそういう場を作っていければいいと思う。
- ・自分は、大学で英語を勉強していて、留学などについて調べたいと思っていたので、国際社会との交流及び連携という部分に関して、弘前市で海外と交流があるのかなあと思った。
- ・物産販売に関する連携、協力や留学する者に対して、補助金を交付する事業などがある。
- ・市内で国際交流することは、できないのか。
- ・クリスマスの頃に、文化センターを会場にして、留学生と一般市民の人たちで、パーティーのような催しもあるし、参画センターには、留学生と交流するサークル活動のポスターなどが貼ってあるという感じだと思う。
- ・他にも、広報ひろさきに着物の着付けに関する国際交流なども掲載されていたし、そういったことでは、かなりそういう機会はあると思う。
- ・国際交流というと、実際に海外に行つてという感じだが、市内に居ながらにして交流できないかといったのには、どういった意味があるのか。
- ・海外への留学等は、経済的にも厳しいし、英語を苦手としている高校生などでも、市内で国際交流できれば、英語や外国に興味を持ったりすることができるのではないかと思ったからである。
- ・最近、ニュースでも騒がれているので、基本原則の項目にある情報共有の原則に興味があって、情報の共有をしてはいけないのが個人情報だというのは分かっているが、知識不足で、まだ、情報共有の重要さをあまり分かっていない。
- ・この場もある意味、学生と民と行政が同じ情報を共有しているが、そうすると、こういうこともあるとって、何かもっといいことができるかもしれない、行政だけでやるよりも、学生の力を加えたらより成果が上げられるかもしれない、だから、あらゆる情報を共有していきましょうという風に捉えるということだと思う。
- ・情報を共有し合っていくと、例えば、学生からアイデアが出ると、他の主体の方々が「気づき」ということになると思うので、フレッシュな意見を出してもらって、協働でやっていければ、すばらしいものになるんじゃないかなあと思う。
- ・今の件で勉強になったのは、中間報告書の内容を何かわかったようでいて、たくさん難しい言葉が並んでいるので、やはりそういった部分については、説明したり、分かり易くしないといけないと思った。
- ・市民を主体にしたまちづくり、その中でも、学生の位置付けが特別だと感じて学園都市と言われるぐらいあるなあとすごく興味を持っているが、そうはいつでも、学生同士の交流や意見を反映させる場が少ないのかなあとちょっと疑問に思ったりした。
- ・単に情報の共有だけでなく、情報を交換したり、交流するような場をもっと作ってというように、具体的に入れていかなきゃいけないということだと思う。
- ・中間報告書の31頁の危機管理体制の確立という部分に興味があり、県外から来た青森のことを知らない人にとっては、災害が発生した際、どんな行動をとればいいのか分からないのではないかと感じた。

#### ○中間報告書の中で、必要、大切だと感じた事項について

- ・中間報告書の中で、これはいい事項だと、あるいは、これは絶対必要な、大切な事項だと、印象に残っているものは何か。
- ・弘前のまちは、人が多い割には、点字ブロックが少なかったり、有音の信号機が少ないなあって思った。

- ・主体の役割の項目で、市民全体だけではなく、そこから学生や子どもに枝分かれしていて、それぞれの役割があるということを示しているのは、すごくいいなあと感じた。
- ・最近実施された（学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアム・弘前市）共通授業で、協働について、一部を町会や市民に任せることで、さらにいいまちが作れるといったような説明を受けており、それも踏まえて、このコミュニティの役割というのは、素敵なことだなあと思った。
- ・弘前は学校が多く、恐らく県外や市外から通う人も多いと思うので、少子化なども踏まえば、学生を主体として、学生目線とか、若い人目線で市をつくっていくというのは、人を呼び寄せたりすることもできるので、いいなあと思った。
- ・学生、コミュニティ、事業者など色んな視点で考えているのはいいと思ったが、中間報告書の14頁のその他の意見のところにある障がい者や高齢者などのカテゴリーもあった方がいいと思った。
- ・子どもの権利というのがいいと思ったが、大人が考えて子どもがいいまちではなくて、子どもが考えて大人が気付かされるいいまち、弘前市にした方がいいと思った。
- ・委員会で、高齢者や障害のある人もカテゴリーとして設けた方がいいのではないかという意見があったが、最終的には、地域で解決してもらおうということで、コミュニティに含めたが、これは、中間報告なので、今の意見を委員会に持ち帰って伝えたいと思う。
- ・学生の役割のところで、全国各地から来ている、たくさんの学生が様々なことを学んでいる学生たちが、自分たちの特性を生かして、新鮮味のある提案をして、色んなことを実践できるという学生力を発揮できるような環境をつくるというのがいいと思ったが、その環境があるということを学生たちにアピールすることが大切だと思う。
- ・意見聴取手続の項目で、市民の方々に聞く、聞きに来るという姿勢がいいと思ったが、その結果だけではなく、マイナスな部分も含めて、どういうことがあってこうしたように、始まりから終わりまでの経過が欲しいと思った。

#### ○中間報告書の中で、疑問に思ったり、訂正した方がいいと思った事項について

- ・中間報告書の中で、ここはこんな考え方があるんじゃないかとか、ここはどうかなあと疑問に思ったり、少しおかしいなあと思ったところはどこか。
- ・市が学生を主体にしているというのは分かったが、せつかくいい感じに育った学生が県外に出て行ってしまうと意味が無いので、弘前市に留めておけるようなこともした方がいいのではないかと思った。
- ・住みやすいまちではあるが、恐らく市民からも道路のこととか出てきて、あまり反映されているのが見えないという意見もあると思うので、どういう意見が出て、こういう解決をしたという情報が、学生や他の人たちにも分かるような対策をとって欲しいと思う。
- ・意見を言えるというのは確かだが、個人個人の目に見えないというのもあるし、意見を聞く機会をもっと増やすということが大切だと思うので、地区毎に聞くとか、年齢にかかわらずに色んなところで聞くとか、大学に行って学生に聞くとかなど、細かく意見を聞いてそれをしっかりと生かしていけるということを表すことが大切だと感じた。
- ・この自治基本条例というのは、本当の根っこというか、基礎になる部分なのかが聞きたいところである。
- ・まちづくりをする上での基本部分、ルールでしかなく、例えば、雪の問題でも、市民からの意見の聞き方は、意見、要望、苦情等の応答義務というのが中間報告書の30頁にあり、執行機関は、まず事実関係を調査し、そして誠意を持って臨むという姿勢を書いている、それが先ほどの雪やその他の場面でも、その姿勢で臨むもので、個別事業は、この基礎の上に乗っかってるといふか、ぶら下がってるといふか、そういった感じである。
- ・意見を聞いてくれる機会についても、今後、市でいろいろと考えてくれるとは思いますが、

やはり自分たちが積極的になるということ、そういった姿勢も大切だと思う。

- ・ 中間報告書の7頁に、市民の幸せな暮らしを実現するとあるが、何か漠然としていて、結局何なんだろうと感じるので、その具体的なものをもう少し示してほしいと思った。
- ・ 中間報告書の11頁に、市民1人ひとりが自らの責任で取り組む意識を持ちとあるが、そのために、市側はどういう風に働きかけるのかという部分が分からないと思った。
- ・ 中間報告書の9頁のこの条例の位置付けに関して、先ほどの内容説明の際に、この条例の趣旨を尊重というのは、この条例の内容を色んなところに浸透させていけたらいいという意図であるということであったが、自分的には、その方が理解し易かったので、そういう言葉にすると、もっと理解が深まると思った。

#### ○学生の特性として挙げられることについて

- ・ 市民や他の主体とは違うような学生の特性には、どんなものがあるか。
- ・ 活動する時間帯が夜が主である。
- ・ お金がなくて、行動力がある。
- ・ 弘前城の入園料でも学割といったように、学生だから少しは安くといったようなものであったり、八戸市のように、学生に限らず、市民も含めて、バス料金の定額というのものあれば、すごく助かると思う。
- ・ 先ほどの活動する時間が夜というのは、昼には勉強しているからであって、市内には、6つの大学があり、市民にとっては、どういったことをしているのか分からないというのがあると思うので、各大学で学んでいることや活動を紹介する場があればいいと思う。
- ・ 弘前は、バイト先が多くていいと思うが、車の免許を持っていない人が多いという学生にとっては、帰りの電車が無かったりするので、働きたいけど働けなかったりすると思う。
- ・ 学生の特性は、若くて、時間があるということである。
- ・ 学生は、自由な時間が多いので、行動範囲が広がるし、学生同士交流したりといったチャンスは、いくらでも転がっていて、そういった機会を作ろうと思えば、作れるのではないかと思う。
- ・ 学生は、好奇心が旺盛で、やりたいことはたくさん出てくるということが特性だと思うが、実際は、やれないっていう部分もあると思う。

(出席委員の感想等 省略)

### 3 閉会